

## 令和5年度 第2回千代田区図書館評議会 議事要旨

### 【日時等】

- 〈実施日〉 令和5年11月9日（木） 14：00～15：27
- 〈場 所〉 千代田区役所 6階 601会議室
- 〈出席者〉
- 評議会委員（7名）
    - 野口 武悟（会長）      鴫田 拓哉（副会長）
    - 須賀 真弓              木原 一雄
    - 今 菜都美              武井 ゆかり
    - 北島 敦子
  - オブザーバー（2名）
    - 区立図書館指定管理者
    - ゼネラルマネージャー 後藤 慎治
    - 千代田図書館長      小出 元一
  - 事務局  
千代田区地域振興部文化振興課長事務取扱  
地域振興部参事 加藤 伸昭 他4名
- 〈欠席者〉
- 評議会委員（2名）
    - 高山 剛一              小峯 惣太

### 【資料】

#### －当日配付資料－

1. 令和5年度第2回千代田区図書館評議会 議事次第  
(参考資料)
  - (1) 第8回千代田区子ども読書調査報告書（令和4年度）
  - (2) 第8回千代田区子ども読書調査報告書 概要版（令和4年度）

#### －事前配付資料－

2. 資料1 令和4年度図書館運営に対する評価シート
3. 資料2 令和4年度図書館運営に対する評価方法について
4. 資料3 評議会委員の評価一覧表
5. 資料4 評価シートに関するご質問・ご提案への回答

## 【次第】

- 1 開会  
文化振興課長挨拶
- 2 議題  
令和4年度千代田区立図書館運営の評価
- 3 連絡事項  
次回日程

## 【議事経過】

- 1 開会  
＜文化振興課長 挨拶＞  
文化振興課長より、挨拶および資料確認を行った。
- 2 議題  
＜令和4年度千代田区立図書館運営の評価＞  
会 長： 本日は、令和4年度の図書館運営に対する評価方法に基づいて、評価シートのコンセプトごとに「評議会委員の評価」をまず決めて、その上で評議会としての「総合評価」を決定していきたい。  
①千代田ゲートウェイは、  
a評価の委員が1人、b評価の委員が7人、c評価の委員が1人。  
委員9人のうちb評価が7人のため、評議会としてはb評価としてよいか。  
→異議なし ①千代田ゲートウェイは、b評価とする。  
②ビジネスを発想するセカンドオフィスは、  
a評価が2人、b評価が7人、b評価が多いため、b評価としてよいか。  
→異議なし ②ビジネスを発想するセカンドオフィスも、b評価とする。  
③区民の書齋は、  
a評価が2人、b評価が7人、b評価が多いため、b評価としてよいか。  
→異議なし ③区民の書齋も、b評価とする。  
④クリエイトする書庫は、  
a評価が1人、b評価が8人、b評価が多いため、b評価としてよいか。  
→異議なし ④クリエイトする書庫も、b評価とする。  
⑤ファミリーフィールドは、  
全員がb評価のため、b評価としてよいか。  
→異議なし ⑤ファミリーフィールドも、b評価とする。  
⑥管理運営等は、  
a評価が5人、b評価が4人、1人でも多い評価のa評価としてよいか。  
→異議なし ⑥管理運営等はa評価とする。  
改めて6つの評価項目ごとに評価を確認する。  
①千代田ゲートウェイ b評価  
②ビジネスを発想するセカンドオフィス b評価  
③区民の書齋 b評価  
④クリエイトする書庫 b評価

⑤ファミリーフィールド b 評価

⑥管理運営等 a 評価

以上、評議会委員の評価は、上記の評価に決定したい。

■評価点

評価	評価点
a	3
b	2
c	1
d	0

続いて、「指定管理者の自己評価」「評議会委員の評価」の2つの評価から「総合評価」を確定していきたい。

「指定管理者の自己評価」はすべてb評価のため自己評価点数は2点となる。それに「評議会委員の評価」を加えて、計算式に基づいて計算すると

■総合評価基準

総合評価点数の計算式

(指定管理者の自己評価点数+評議会委員の評価点数×2) / 3

総合評価点数	総合評価
2.6 以上	A
2.6 未満 2.0 以上	B
2.0 未満 1.0 以上	C
1.0 未満	D

①千代田ゲートウェイの総合評価点数は、

(指定管理者2点+評議会委員2点×2) / 3 = 2.0点、となり、

「総合評価」は、B評価になる。以下同様に計算すると

②ビジネスを発想するセカンドオフィスは、

総合評価点数は、2.0点、「総合評価」は、B評価

③区民の書齋は、

総合評価点数は、2.0点、「総合評価」は、B評価

④クリエイトする書庫は、

総合評価点数は、2.0点、「総合評価」は、B評価

⑤ファミリーフィールドは、

総合評価点数は、2.0点、「総合評価」は、B評価

⑥管理運営等は、

総合評価点数は、2.7点、「総合評価」は、A評価

総合評価は、以上のように確定したい。

この評価シートについては、区の評価と合わせて「令和4年度千代田区立図書館運営評価」として冊子にまとめたのち、公表する予定である。区のホームページにもアップする予定である。冊子は区立図書館でも閲覧できるのか。

文化振興課長： 確認する。(確認の結果、区立図書館5館で閲覧可能である。)

会長： ここから委員の皆さんからご意見をいただきたい。

まず、事務局でまとめた「令和4年度図書館運営に対する評価シートの内容に関する質問・提案一覧」の説明をお願いします。

文化振興課長： さまざまなご意見を26件いただいたが、簡潔に説明する。

(説明した内容は、資料4を参照。説明で取り上げた項目のみ記載)

①千代田ゲートウェイ

1. 情報発信力の課題、2. 情報発信の評価方法

②ビジネスを発信するセカンドオフィス

5. セカンドオフィスとしての機能、6. セカンドオフィスだけでなく新たなコンセプト導入

③区民の書齋

10. ライフステージに沿った図書館の使い方、11. 蔵書満足度の増減理由、12. 中高生の利用満足度の減少理由

④クリエイトする書庫

18. 特別研究室資料のデジタル化、19. 地域資料の受け入れ中断

⑤ファミリーフィールド

21. 図書館サービスのわくわく感の創出、23. おはなし会の開催日・開催時間

⑥管理運営等

26. 利用者統計のデータ化と分析

会長： ありがとうございます。ご説明いただいた点、それ以外の部分でもよいが、皆様からご意見やご質問があればお願いしたい。

委員： ⑤の21に関連して、葉山のボランティアの人たちが家の前で行っている、無料の図書貸し出しスペース「リトルフリーライブラリー」という取り組みをご存じか。どこで借りてもどこでも返せる、破損しても帰ってこなくても仕方がないという考え方。移動図書館ができないとか、様々な課題がある中で、この取り組みによりいろいろな場所で子どもたちが本を借りて返しに行くという話を聞いている。ほかで順調なケースで、千代田区で取り組めるものがあれば導入することもよいのではないか。

会長： それは公立図書館の事業か。

委員： 分からない。

会長： 似たような取り組みは全国にあって、佐賀県の伊万里でも似たことを行っている。ただ図書館は、後方支援的な役割をしていて、図書館資料として扱うのはなかなか難しいところがある。広い意味での生涯学習活動として、地域に拠点を作って市民中心に運営する活動は結構全国で行われているので、そういう活動を図書館が支援することは考えられる。

文化振興課長： 何がどうできるのか、確認させていただきたい。

会長： 移動図書館は、千代田区立図書館として車を持っているか。

文化振興課長： 持っていない。

会長： 始めようと思うと、ブックモービルを買わないといけないわけか。

文化振興課長： 買うのか、借りられるのか、調べないと分からない。

会長： 移動図書館車は専用の車なので替えが利かない。改造も必要でそう考えると、導入するのならかなり積極的に運用していかないと駄目だ。

文化振興課長： 導入コストもかかるが、置く場所を確保しなくてはいけない。さらに、最終的には運営人員も確保しなくてはいけない。人手不足と相まってどのくらいのコストが最終的にかかるのかといったところの見合いになる。

委員： 確かに保護者はよいかもしれないが、小学校・保育園を回るなら、そちら側との調整も必要なのはうなずける。

文化振興課長： 児童館でも人的に、作業量的に難しい現状が多分ある。

委員： 最近の高齢化の問題に関連するような事案で、1つの策として、寄贈本などのリサイクル利用を区民館で行ってみるとか、子ども向けだけではなく、高齢者向けにもあってもよいかもしれないが、人手の問題など議論もある。

会長： 今年、まだ未施行であるが、認知症基本法が制定された。多分1年を超えないうちに施行となる。実は認知症基本法は、私たちのイメージで福祉とか医療という領域がカバーすると思われがちであるが、認知症基本法をよく読むと「教育もそこに关わる」と書いてあり、図書館は地域の社会教育・生涯学習の機関なので、何ができるのか検討していかないといけない長期的なテーマになるのではないか。そのあたりも視野に入れつつ今後検討が必要と思われる。

千代田図書館長： 現在でも認知症の特集展示だとかは行っている。それから今はディスレクシアも重要で、決してマイナーではない。皆さんにも認知度を広めないといけないと思っている。

委員： 特別研究室資料のデジタル化について、国会図書館は明治時代の資料を全部スキャンしてOCRにかけているが、そういうことでは駄目なのか。

千代田図書館長： 国会図書館のような資料は研究者にはいいが、千代田区立図書館では一般の方に解説などをつけて、分かりやすくしないといけないと考えている。

会長： 図書館の種類によって使命が違う。千代田区立図書館は公立図書館として、区民やビジネスマンにサービスするという前提がある。一方、国会図書館は研究者から専門の人まで全国民に対して、とにかく全部デジタル化してニーズに合わせて使ってもらおうという発想である。したがって、そこで線引きが必要である。

文化振興課長： 持っている資料を全部デジタル化しても、するだけでは区民の利用は見込めない。やはり資料に何かストーリーを持たせないと駄目だと考えている。

会長： 「監修」という言葉があるが、要は専門の方のガイドがある状態のものを区民に示したい訳ですね。

委員： こういった形で質問・提案に対して、回答がきちんとあることで、今回指定管理者の評価が高かった理由が分かる。そこにつながる委員皆さんの真摯な姿勢が評議会を通して分かったことがすごく意義あると感じた。また今回できないところも評議会で検討を続けながら図書館の改善につなげていただきたい。

文化振興課長： 図書館の運営改善に向けて指定管理者と評価項目を設けて行っているが、もしかしたらその枠を超えていかないといけないところは、この評議会でご提案いただいで考えていかなければならない。これからの課題の一つとしては、デジタル化があると認識している。図書館を利用する方々も変わり、利用の仕方も変わっていくでしょう。やはり少子化の問題もある。また、社会の構造自体が変わっていくので、我々のサービス提供の仕方も変えていかなければいけないと認識している。

- 委員： サービスを減らすことも視野に入れていただきたい。新しいものにチャレンジするには、今までのサービスを見直して、これは人気がないから決断してやめようというものも作らないと、新しいものに対するマンパワーが使えないと思うので、バランスよくお願いしたい。
- 文化振興課長： 本当に人手という部分が非常に大きなリソースである。どこに重点を置いてどのように考えていくのか毎回議論しながら積み上げていくしかない。どのサービスをどう減らしていくのかといったところも含めて議論しながら、いい図書館にしていきたい。
- 副会長： 資料4の質問と回答のシートは、よい質問で丁寧に回答している。この図書館の真摯な取り組みはもっと外に出してもよいものと思う。例えば、移動図書館の意見やシニア向けの意見は、Q&Aの形で「図書館はこういうふうを考えています」とWebサイトで情報発信してもよいのではないかと。きっと多くの方も素朴な疑問がWebサイトに載っていたら、共感や理解が得られるのではないかと。また、Webサイトで図書館側の考えを発信できる場所があってもよい。
- 会長： まさに評価の情報発信のところでも関連するご意見である。  
この評議会の議事録は、Webサイトで公開しているか。
- 文化振興課長： 公開しているが、載せ方を工夫したい。
- 委員： アンケート集計を重視されているという話があったが、アンケートの全体数が少ない気がしている。アンケートの数が限られていて、その日にそこにいた何百人しか回答しなくて、それを基に1年間の内容を決めているのは、狭いところの意見で決めているのではないかと、違和感を覚えた。
- 会長： アンケートそのものを用意する作業も、実は職員に負担をかけてしまっているところもあるから、高頻度に行うこともいかない。大変悩ましい中で作業していると思う。しかし、工夫できる余地はあるかもしれない。
- 文化振興課長： ここで参考資料として配付した「第8回千代田区子ども読書調査報告書・概要版」について、簡潔に説明する。  
(説明内容は、参考資料を参照)
- ・調査目的、調査対象、調査方法、調査時期
  - ・対象者の属性
  - ・読書について
- 会長： 1点教えていただきたい。「本を読む」というときの「本」の中には電子書籍を含んでいるという理解でよいか。
- 文化振興課長： はい、その理解で大丈夫である。
- 委員： 今、学校で使用しているタブレットに電子書籍がいっぱい入っている。何冊読んだかでポイントを競い合っていると聞いている。
- 文化振興課長： 学校によってであるが、そのようなことを行っている学校もある。

### 3 連絡事項

- 文化振興課長： 次回、令和5年度第3回の図書館評議会は、2月上旬の開催を予定している。詳細は、追って事務局から連絡する。  
以上で令和5年度第2回千代田区図書館評議会を閉会とする。